

『魅せる』『伝わる』色彩コミュニケーション!!

なぜ印刷すると色味が変わってしまうの？

通信やチラシをパソコンで作成する時に文章を考え、色は内容や季節に合わせて配色をして、いざ出力！をしてみたら、色味が違った・・・なんて経験はないでしょうか？もちろんそれなりのソフトを使えば、色味の誤差は少ないと思いますが、そもそも何故モニター画面で見た色味と実際の印刷物の色味に違いが出てしまうのか？今回はその理由についてお話したいと思います。

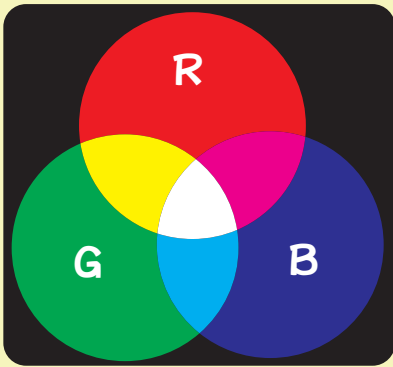
まず結論から言ってしまうと、それはモニター画面と印刷物の「色の作り方」の違いにあります。色は条件が整っていれば750万色、通常の状態では187万5000色が人には見えるとされている程、多く存在しています。しかし、それらの色をつくる時に使われる基本となる色は実はたったの3色で、それぞれに使用されているこの基本の3色が違うことからモニター画面と印刷物の色味に違いが出ています。

モニター画面の基本色

基本色

R (レッド)
G (グリーン)
B (ブルー)

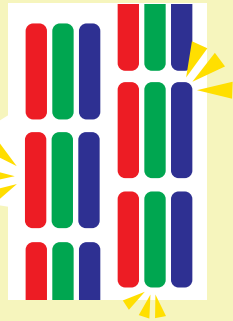
※色が無い部分は『黒』



重ねると 白くなる

基本色を光らせることで色をつくっている

機械内部イメージ

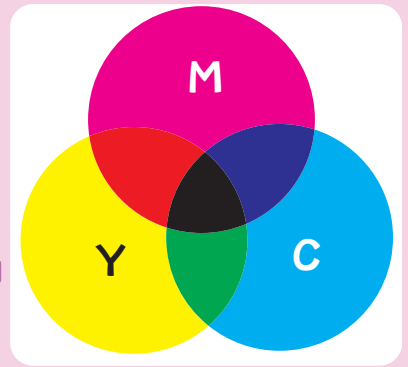


印刷物の基本色

基本色

C (シアン)
M (マゼンタ)
Y (イエロー)

※色が無い部分は『白』



重ねると 黒くなる

インクを重ねることで色をつくっている

機械内部イメージ



R G Bは表現できる色が広範囲で鮮やかに写し出されることから、テレビやモニターではこの方法が使用されています。では、印刷機器もR G Bにすれば鮮やかになるのではないかと疑問が生まれますが、R G Bで色を作る条件に「発光」があります。ライブや舞台の照明もR G Bが使われていますが、ライトが重なった部分は白く見えませんか？それに対し印刷物は発光をしない為、必然的にC M Y + Kが使用されます。印刷時にはモニターの色に少しでも近づけようと変換をしていますが、C M Y KでR G Bを100%表現することは不可能と言われる程難しく、色がくすんだ感じに変わってしまいます。このことを踏まえ、印刷物は気持ち明るめの色で作成して頂くことがオススメです！



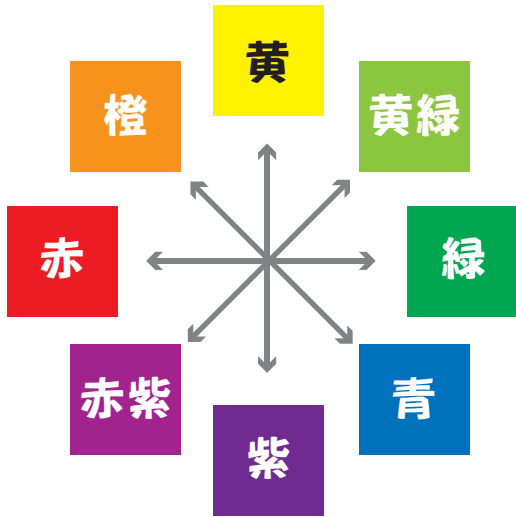
デザインの種類

今回のテーマ：
「目に留まるカラーとは？」

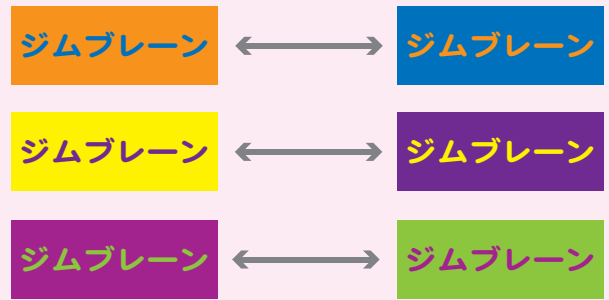
表面でご説明したように色は多数あり、少しでも映えるようにカラフルな色使いをしたいところですが、1つの作成物には数色で抑えるとまとまりがあって良いとされています。そこで“目立たせたいところ”や“重要なところ”はしっかり目に留まり、更に全体のイメージを邪魔しないような色の使い方をご紹介しますと思います。専門的に見える表が出てきますが、覚えてしまえばとっても便利です！

まず、色には左図のような配置が決められています。（もちろんしっかりと覚える必要はなく、虹のグラデーションを思い出していただければOKです。）各色の**反対側に位置する色は対象的な色**とされ、目立ちつつも全体はまとまりのあるまま使用できる色です。
たったこれだけ！とても簡単なので是非お試し下さい！

色同士の関係



反対色(補色)を使用したイメージ



同系色でまとめたチラシ



補色を使ったチラシ



反対色をポイント使いすることで、まとまりがありながらもしっかり目立つ！

イロイロ雑学

雨上がりによく見る虹がどのような仕組みで見えているのか、ご存知の方も多かもしれませんが、虹は①空気中の水滴に光が入る→②水滴がプリズムの役割を果たす→③その水滴内で反射・屈折→④再び光が外に出ることで見えています。

私達がよく見ている虹は水滴の中で1回反射してできた「主虹」と言われるもので、実は条件が良ければ水滴内で2回反射してできる「副虹」(別名『ダブルレインボー』)が現れることがあります。副虹は主虹の外側にでき、色は主虹と逆のグラデーションになっているため、見る機会があればチェックしてみてください。



ダブルレインボーを見た人には幸運が訪れると言われているよ！



色彩を使った印刷物で、より良いコミュニケーションを！

次回も

Let's カラコミュ!!